

令和 7 年 7 月 30 日

長浜市議会議長 高山 亨 様

会派名 無 会 派

代表者名

(又は議員名) 杉 本 英 一

旅費の支出をとまなう政務活動報告書

旅費の支出をとまなう政務活動を下記のとおり実施しましたので、提出します。

記

- 1 実施年月日 令和 7 年 7 月 14(月)～ 令和 7 月 16日(水)
- 2 政務活動の種別 調査研究 **研修** 要望・陳情
- 3 参加者 杉 本 英 一
- 4 視察内容
 - ① 北海道小樽市・ライトアップによる観光地の魅力向上について
 - ② 北海道札幌市北海道がんセンター・放射線治療の現状と展望について
 - ③ 北海道函館市縄文交流センター・博物館の展示と運営について
 - ④ 北海道函館市役所・観光を通じた地域経済の活性化と持続可能な体制づくりについて
- 5 行き先
北海道小樽市・札幌市・函館市

研修内容報告

- ① 運河で有名な小樽市では、ライトアップされた建物を見て歩く、ロマンチックな街歩き「小樽ライトアップ散策ガイドツアー」が開催されています。小樽観光ガイドクラブの方がライトアップされた歴史的建造物を案内しておられます。また案内体制も整っており、日本語・英語・中国語・韓国語のパンフレットや、地図が完備され、観光案内所も年中無休・夜8時まで開いており、外国人観光客に対しても非常に配慮されていることがわかりました。長浜市でも歴史的な建物やエリアの魅力を見直し、夜間の賑わい創出に活かしていきたいと思えます。
- ② がん治療は、外科的治療・内科的治療・放射線治療の三本柱が中心であるが、日本では、放射線治療へのアクセスが難しい状況にあります。その中でも、放射線治療に関ることになった理由を、説明していただ

きました。血管造影 CTの出現や、当時、北海道にリニアックは8台しかなかったことなど長年にわたる環境の変化と、自分自身の知見などから進めてこられた癌治療の歴史を細かくお話していただきました。医学用語もいろいろと教えていただき多賀、総論として、癌は人によって全部違う。初見・検診ができていないか否かが重要で診断学・治療学を明確にしなければならないこと。また多くの患者を救うためには、医師自らが、自分の身を投げだす覚悟が必要であると言われた時には、感極まりました。

- ③ 函館市縄文文化交流センターは、南茅部縄文遺跡洋構想における縄文文化の普及・啓発、調査研究、情報交流を目的に整備された施設です。平成23年10月に開館した登録博物館で、全国で唯一国宝を展示する道の駅「縄文ロマン南かやべ」としても知られています。構造は鉄筋コンクリート地上2階建てで、面積 7,140㎡、建物全体が博物館法に基づく登録博物館である事。国宝「中空土例」をはじめ、各種指定文化財を常時展示されています。

指定管理者制度による管理・運営(平成28年4月1日から)されており、体験学習や定期講座の実施展示室は1階と2階に4つのコーナーを設けているほか、2階の展望スペースには各種パネルを展示されています。体験学習・定期講座も実施されており、体験学習室に於いては、手軽に縄文文化を体験できるとの事で、「ミニチュア土器づくり」、「縄文あみ」、「縄文ペンダントづくり」など有料メニュー7種、土器復元や塗り絵などの無料メニューが用意されているとの事でしたが、中でも「縄文釣り体験」は大変興味をそそられました。

今回長浜市が予定している「小谷戦国ミュージアム」と、世界遺産である「函館市縄文文化交流センター」とを比較することはできないとは思いますが、ただ戦国時代の歴史を振り返るだけの、展示施設ではなく児童・子供たちも楽しめるような手段・工夫が、多いに必要であると痛感いたします。

- ④ 函館市では、2024年の観光客数が約602万人余りと過去最高を記録し、前年同期比13.9%増、2016年の北海道新幹線開業時を超える水準となっています。

外国人宿泊客数も56万人余りと過去最高で、特に台湾からの観光客が全体の約40.5%を占め、コロナ禍前後で比較すると、米国人宿泊客の比率も182%と大幅に増加しています。円安や国際線直行便の就航が主な要因とみられ、クルーズ船の寄港回数も過去最多を更新予定です。

函館市は2024年度から、2028年度の「函館市観光基本計画」を策定し、基本理念に「観光の価値を高め、函館を照らす」を掲げ、質の高い観光による観光消費額の向上や、観光の繁閑差の是正、人材の育成、市民の理解促進などを基本理念としています。

さらに5年後の目指す姿として、観光消費の増加による観光業の活性化と、関連産業や市民生活全体への経済波及効果を意識した地域づくりを推進しているところが、大変印象的でした。

さらに時代の変化に対応した滞在型・体験観光型の充実、多言語対応や、キャッシュレス環境の整備など、多角的な取り組みで観光の魅力と利便性を高めている点にも深く感銘を受けました。これにより、観光客の満足度を高め、持続可能な観光都市の実現を目指す姿勢は、長浜市の観光振興においても、おおいに参考にすべきであるものと考えます。

長浜市においても、長浜市曳山祭りや歴史的建造物、豊かな自然といった既存の観光資源を最大限に活用しながら、体験型プログラムの拡充やナイトイベントの企画など、新たな価値創造に努めるべきだと思います。外交人観光客を含む多様な来訪者に対応するためには、多言語案内やキャッシュレス決済の導入促進を推進することが重要です。さらに、SNSや動画配信といったデジタルツールを活用し、若年層や海外からの誘客強化に注力することが、これからの長浜市の観光にとっては、持続可能な観光振興のポイントになると、痛感いたします。